

# 論壇

## 人手の偏在化 顕著に

AI(人工知能)によって、これまで人間がやっていた仕事が多くなってしまふ。あなたの仕事は大丈夫なのか。そういったセンセーショナルな見出しがついた本が並び、テレビや新聞でもそうした特集が組まれるようになってきた。

確かに、私たちの仕事は大きく変わりそう。例えば、銀行では大幅な人減らしの議論が進んでいる。大手の銀行のトップが、公然と、多くの人材が必要なくなることを発言している。銀行で行われてい

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

る事務作業の多くはIT(情報技術)やAIに置き換わっていくだろう。

医師、弁護士、税理士などの世界でも、技術が雇用を奪いそう。人工知能の方が人間の医師よりも優れた診断を下す分野は増えそう。弁護士や税理士がやっている仕事の多くは数字の処理や文書の

作成であるが、こうした作業もAIやITでカバーされそう。ただ、当然、AIやITに置き換わりそうもない職業もある。特に、現在、深刻な人手不足に悩む分野の労働力の中には、AIやITで補うことが難しそうなものが多い。介護職員、コンピューター

のエンジニア、物流で働く人材などである。こうした仕事の一部は技術で置き換えることができるだろうが、それにも限度がある。

要するに、技術が私たちの雇用を奪うのではなく、技術の変化で人手不足と人余りの分野が顕著に出ているということだ。私たちはこうした変化を認識し、技術と職

を争うのではなく、技術を利用してきるよう自らが変わることが必要である。

## AIと雇用変化

18世紀の産業革命以前、最も高い評価を得られた労働者は、肉体労働をする人たちだった。筋骨隆々で重いものを運ぶことができる人こそ、労働者の花形だった。それ

を根底から変えたのが、産業革命だ。機械が重労働を引き受けてくれることで、肉体労働の価値は下がった。筋骨隆々の肉体労働者は、花形労働者からチープレイバーに脱落してしまった。

こうした大規模な変化が、今、まさに起きようとしている。現在は高額の所得を稼いで花形に見える職業も、10年後には人余りの低賃金労働になっているかもしれない。しかしそれは全ての仕事が消失するというのではなく、機械や技術にできない仕事をする人により多くの賃金が払われるということかもしれない。

世の中の流れに適應 ころいった話をすると、必ず聞かれることがある。「ではどのよ

うな仕事か。今後は良いのか」と。残念ながら、こればかりは誰にも分からない。それほど、技術革新のスピードは速いのだ。ただ、一つ言えることがある。よく言われることだが「強いものが生き残るわけではない」「賢いものが生き残るでもない」「変化に対応できる者が生き残れるのだ」。

だからこそ、世の中の変化の方向を見極める力を持ち、自らをそうした流れに適應させることができる能力が必要となる。世の中はどちらに向かっているのか。そうしたことを考えるための材料は、例えば新聞を開けば、いくらでも見つけることができる。変化を恐れるのではなく、変化を楽しむ。そうした気持ちが大切だと思う。

世の中の流れに適應 ころいった話をすると、必ず聞かれることがある。「ではどのよ

うな仕事か。今後は良いのか」と。残念ながら、こればかりは誰にも分からない。それほど、技術革新のスピードは速いのだ。ただ、一つ言えることがある。よく言われることだが「強いものが生き残るわけではない」「賢いものが生き残るでもない」「変化に対応できる者が生き残れるのだ」。

だからこそ、世の中の変化の方向を見極める力を持ち、自らをそうした流れに適應させることができる能力が必要となる。世の中はどちらに向かっているのか。そうしたことを考えるための材料は、例えば新聞を開けば、いくらでも見つけることができる。変化を恐れるのではなく、変化を楽しむ。そうした気持ちが大切だと思う。

世の中の流れに適應 ころいった話をすると、必ず聞かれることがある。「ではどのよ

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。